

平成31年3月期 第2四半期 決算説明会資料

平成30年12月4日
永大産業株式会社



1. 平成30年度上期業績報告 及び
平成30年度業績予想
2. 台風21号による災害と復旧状況
3. 経営計画(今後の施策)

代表取締役社長 大道 正人

4. 平成30年度上期 決算概要

取締役常務執行役員 植村 正人

1. 平成30年度上期業績報告 及び 平成30年度業績予想

平成30年度上期 連結業績

<経営成績の概要>

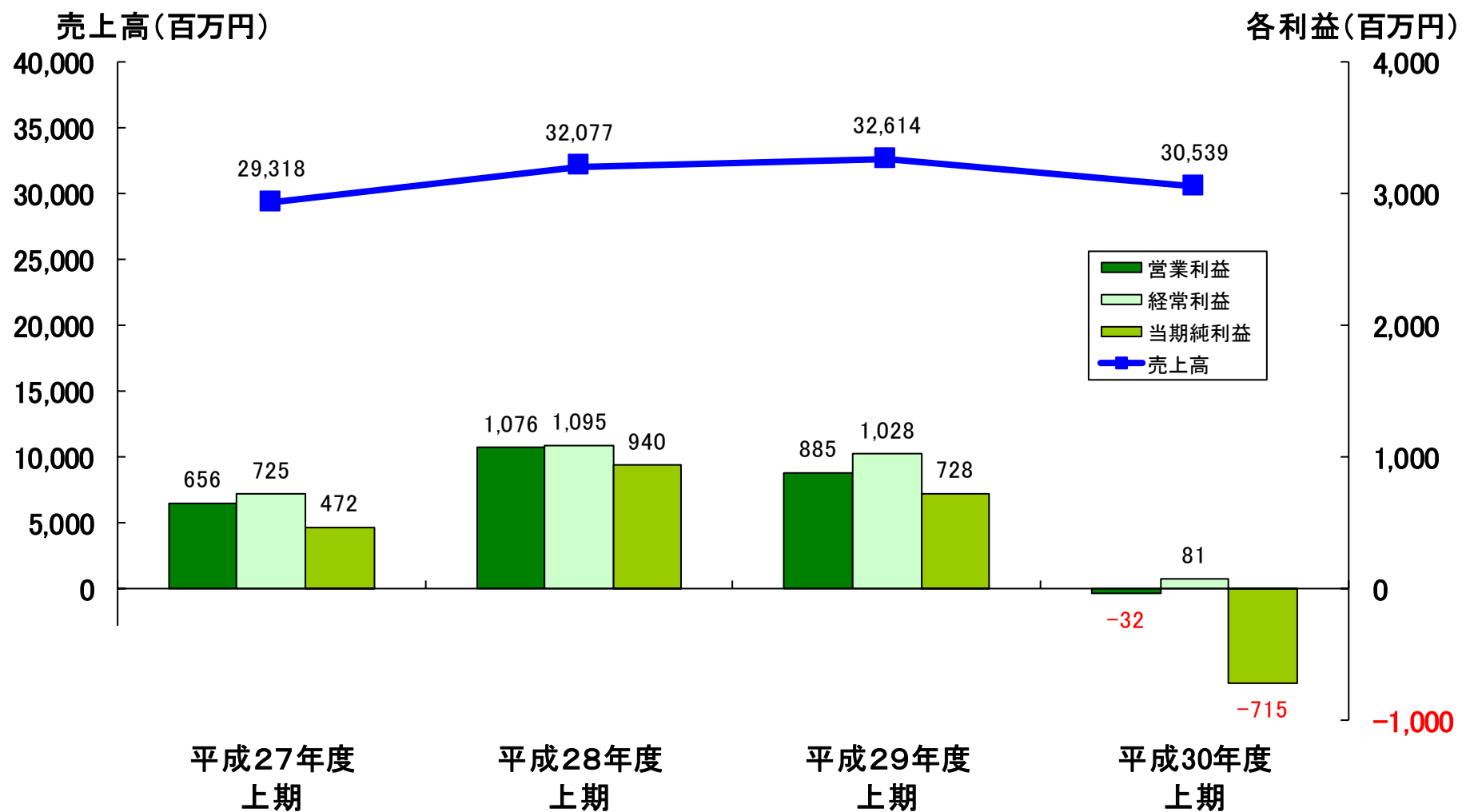
- ・わが国の経済は穏やかな回復基調で推移
- ・住宅業界は、新設住宅着工戸数 が底堅い動きを続けるも、持家・貸家を中心に勢いを欠く

	平成27年度 上期	平成28年度 上期	平成29年度 上期	平成30年度 上期	増減	対前期増減率 (%)
売上高	29,318	32,077	32,614	30,539	△2,075	△6.4
営業利益	656	1,076	885	△32	△917	—
経常利益	725	1,095	1,028	81	△947	△92.1
当期純利益	472	940	728	△715	△1,443	—

注：災害による損失として特別損失 : 963 百万円

木質ボード事業において減損損失：139 百万円

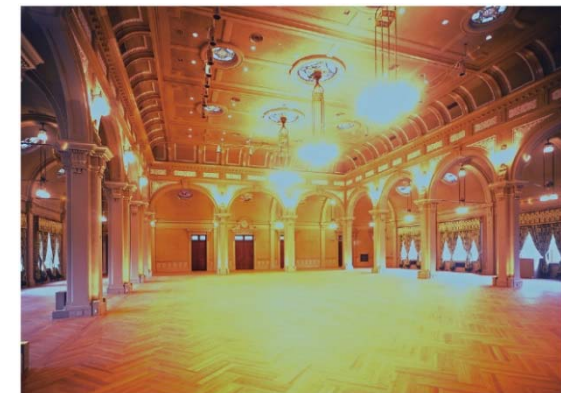
平成30年度上期 連結業績



分野別の主な取組み

＜建材分野＞

- ◆ 高級感漂う伝統的なデザインであるヘリンボーンを「銘樹」シリーズに追加(2018年8月発売)
- ◆ 季刊誌「銘樹ストーリー」を通じた銘樹ブランドの魅力発信



大阪市中央公会堂 中集会室

＜内装システム分野＞

◆新製品の開発、販売推進

収納力、デザイン性、施工性を向上させたビルトイン収納「フィルフィット」
(2018年6月発売)

◆ 非住宅分野

販売体制を強化し、「セーフケアプラス」製品群の特性を活用し、幼稚園や
保育園などの園舎向けや医療施設などへの販売取組み



＜パーティクルボード分野＞

- ◆ 輸入合板の高騰を背景にパーティクルボードの代替需要が増加し、
置床を中心に素材パーティクルボードの販売が好調に推移
- ◆ 売上は増加したが、燃料費、接着剤の価格高騰に伴い製造原価が上昇
- ◆ 適正な販売価格への引き上げ、固定費の圧縮を推進

平成30年度 連結業績予想

(百万円)

	平成29年度		平成30年度			
	第2四半期 実績	通期 実績	第2四半期 実績	前期比 増減率	通期 業績予想	前期比 増減率
売上高	32,614	66,977	30,539	-6.4%	—	—
営業利益	885	2,173	-32	—	—	—
経常利益	1,028	2,407	81	-92.1%	—	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	728	1,264	-715	—	—	—

※台風被害が通期連結業績に与える影響は現在調査中であり、
平成31年3月期通期連結業績予想は一旦未定とさせていただきます。

配当に関する基本的な考え方

(円)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度 配当予想
中間	—	6.50	7.50	8.50	8.50	8.50
期末	13.00	6.50	7.50	8.50	8.50	8.50
合計	13.00	13.00	15.00	17.00	17.00	17.00
連結配当性向	23.3%	23.3%	53.4%	33.1%	60.9%	—



基準日	年間配当金		
	第2四半期末	期末	合計
平成29年度	8円50銭 (普通配当 8円50銭)	8円50銭 (普通配当 8円50銭)	17円00銭 (普通配当 17円00銭)
平成30年度予想	8円50銭 (普通配当 8円50銭)	8円50銭 (普通配当 8円50銭)	17円00銭 (普通配当 17円00銭)

安定配当を重視

平成27年度より連結配当性向、
必要に応じた自己株式の取得を
基本方針に追加

平成29年度
連結配当性向：60.9%

2. 台風21号による災害と復旧状況

台風21号(2018年9月4日)による被災状況

① 大阪事業所の被災

- ・室内ドア、造作材、クロゼット、収納製品群、キッチンの主力工場の工場建屋及び生産設備

② 物流拠点の被災

- ・物流拠点の建屋及び在庫
- ・更に、生産量と物流量のバランスが大きく崩れたことに起因する物流拠点の混乱が発生

復旧状況

① 室内ドア、造作材、クロゼット、収納製品群

- ・概ね被災前の生産能力に回復
- ・各物流拠点の混乱収束のため受注制限を継続
- ・カタログ記載の納期でお届けできていない状況

② キッチン

- ・被災工場における生産再開の目処が立っておらず、生産能力が大幅に不足
- ・被災前の生産能力に回復するまで、かなりの時間を要すると判断

被災後、長期間にわたりお客様にご迷惑をおかけする要因となった生産及び物流に係るシステムを検証し、さらなる改善に向けて社内プロジェクトを発足させ、危機管理体制の強化に努めてまいります。

決算への影響

災害による損失として、963 百万円を第2四半期連結累計期間の特別損失に計上

- ・災害による損失には、第3四半期以降に見込まれる復旧費用等の支出に備えて計上する災害損失引当金繰入額 431 百万円を含めております。
- ・現時点で合理的に見積もることが困難な復旧費用等については、災害による損失に含めておりません。

3. 経営計画(今後の施策)

今後の主な施策

＜住宅分野での収益力の強化＞

① Skism(スキスム)の販売開始(2019年1月15日予定)

- ◆お客様が描く”憧れの暮らし”の実現を
当社の製品でトータルにお手伝い
- ◆「Skism T」と「Skism S」の2つのシリーズをラインアップ



スキスムT施工例
インダストリアル・スタイル

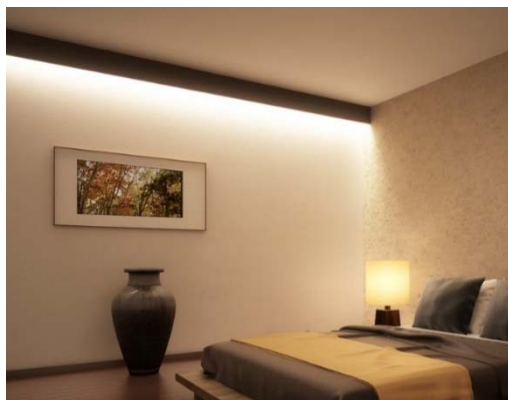


スキスムS施工例
シンプルモダン・スタイル

＜住宅分野での収益力の強化＞

② 間接照明用部材と化粧壁材

◆ 間接照明による空間演出を省施工で対応



◆ 凹凸のある化粧壁材との併用で、 照明の光と影のコントラストにより上品な雰囲気醸造

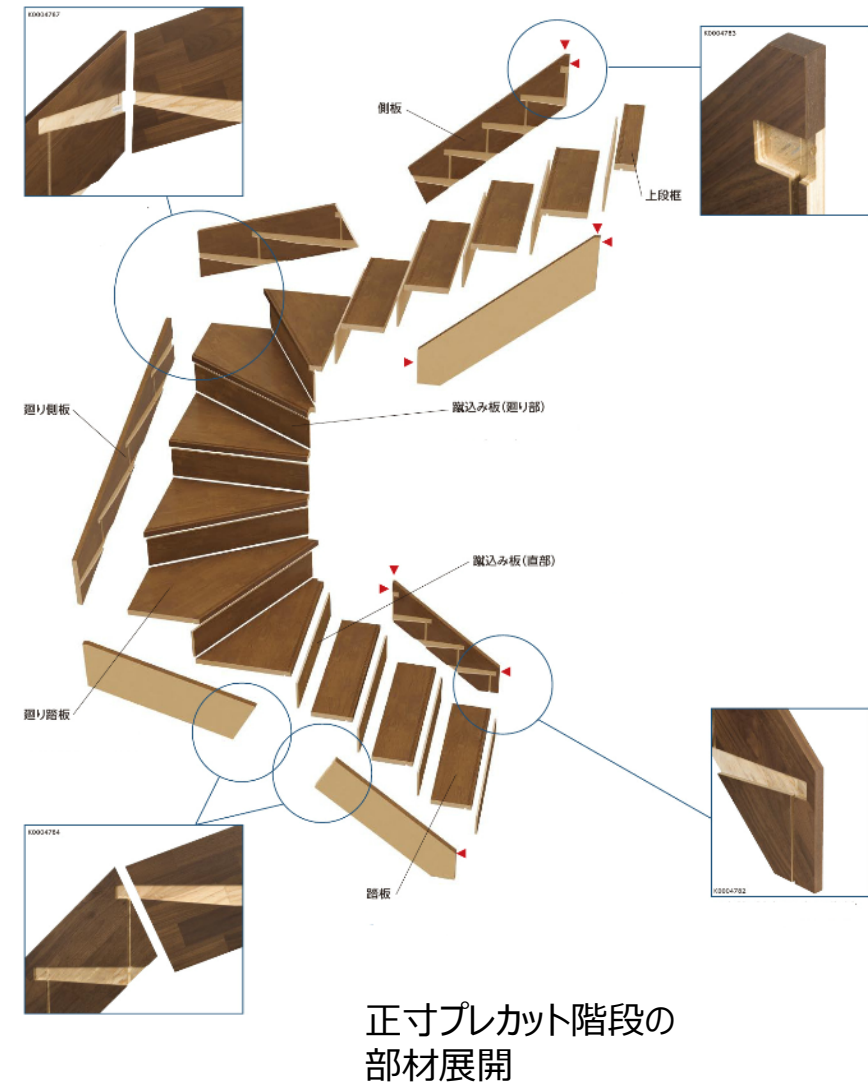
◆ Skism S(スキスムS)と合わせてコーディネート可能



＜住宅分野での収益力の強化＞

③ 高度な“正寸プレカット技術”＋ “デジタル印刷技術”の活用

- ◆ 熟練大工の減少、仕上りの均一化、
施工現場の廃材削減への対応
- ◆ 顧客ニーズの多様化への対応



＜非住宅分野の開拓と拡販推進＞

④ 非住宅分野向け商品の開発継続

- ◆ 幼稚園や保育園などの園舎をはじめとする文教施設への対応製品
- ◆ 医療施設、商業施設、宿泊施設への製品展開

園舎



クリニック



＜海外事業の強化＞

⑤ 永大インドネシアでの製造・販売体制の早期構築

◆ 設立 : 平成29年 9月20日

操業開始 : 平成30年11月(11月8日に竣工式典開催)

所在地 : Delta Silicon 6, Lippo Cikarang, Bekasi, Indonesia



⑥ 永大ベトナムでのベトナム国内で現地仕様のフローリング販売に向けた取り組み

VIETBUILD Ha Noi 2018
現地パートナーとの出展



＜環境保全への取組み推進＞

⑦ 次世代蓄熱フローリングシステム「エコ熱プラス®」の技術活用

- ◆ 「エコ熱プラス®」が次世代省エネ建材支援事業の対象に選定（*注1）
- ◆ 蓄熱建材コンソーシアムの一般社団法人化（<https://pcmconso.jp/>）
一般社団法人日本潜熱蓄熱建材協会（2018年11月1日設立）
蓄熱建材の普及・発展を推進し、環境保全への貢献に寄与

⑧ クリーンウッド法(*注2) への対応

- ◆ 「第一種登録木材関連事業者」「第二種登録木材関連事業者」への
登録完了（登録番号：JTCCM CLW I II 18001，登録日：2018年4月1日）
- ◆ 国産材の積極的な活用

*注1：「環境共創イニシアチブ」参照

https://sii.or.jp/meti_material30/search/maker?tab=maker&category=tikunetu#search

注2：「合法伐採木材等の流通及び利用の促進に関する法律」の通称

経営三ヵ年計画(2019年3月期～2021年3月期)の基本方針

① 住宅分野での収益力の強化

- ・新製品開発と製品拡充
- ・生産性向上とコスト低減
- ・中古住宅、リフォームにも対応する省施工化、短納期化

② 非住宅分野の開拓と拡販推進

- ・保育園・幼稚園等の文教施設、医療施設、商業施設、宿泊施設への対応

③ 海外事業の強化

- ・永大ベトナム(Eidai Vietnam Co., Ltd.)での生産効率や品質の向上
- ・永大インドネシア(PT. Eidai Industries Indonesia)での製造・販売体制の早期構築

④ 原材料の安定した調達

⑤ 環境保全への取組み推進

- ・クリーンウッド法への積極的な対応
- ・積極的な国産材の活用による森林保全、国内林業の活性化
- ・プレカット製品による施工現場での廃材削減

⑥ 多様な人材の活用及び生産性の向上

4. 平成30年度上期 決算概要

連結損益計算書

(百万円)

	平成29年度 上期	平成30年度 上期	増減	
			金額	前期比
売上高	32,614	30,539	△ 2,074	△ 6.4%
売上総利益	8,506	7,544	△ 961	△ 11.3%
(売上総利益率)	26.1%	24.7%	—	△ 1.4ポイント
販管費	7,620	7,576	△ 43	△ 0.6%
(販管费率)	23.4%	24.8%	—	1.4ポイント
営業利益	885	△ 32	△ 917	—
(営業利益率)	2.7%	△ 0.1%	—	△ 2.8ポイント
経常利益	1,028	81	△ 947	△ 92.1%
(経常利益率)	3.2%	0.3%	—	△ 2.9ポイント
親会社株主に帰属する 当期純利益	728	△ 715	△ 1,444	—
1株当り当期純利益	16円08銭	△ 15円81銭	△ 31円89銭	—

事業セグメント・分野

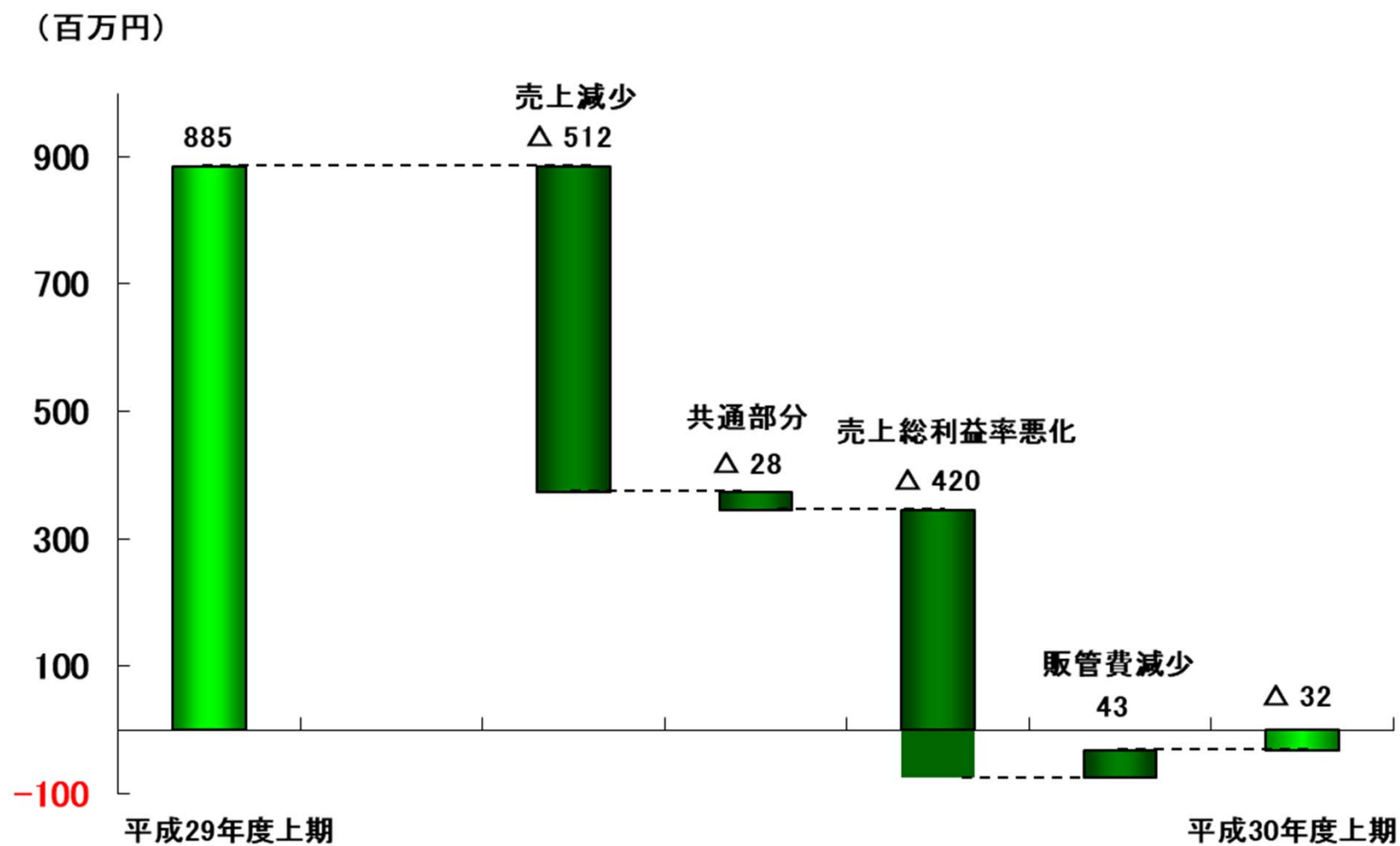
セグメント	分野	主な製品	拠点
住宅資材事業	建材分野	フローリング 室内階段	山口・平生事業所 敦賀事業所 Eidai Vietnam Co.,Ltd.
	内装システム分野	室内ドア、造作材、カウンター システム収納、シューズボックス その他内装部材	大阪事業所 永大小名浜株式会社
	住設分野	システムキッチン 洗面台 システムバス	大阪事業所
木質ボード事業	パーティクルボード分野	素材パーティクルボード 化粧パーティクルボード	山口・平生事業所 敦賀事業所 永大小名浜株式会社
その他事業	不動産有効活用事業（賃貸マンション） 太陽光発電事業（山口・平生事業所、大阪事業所）		

連結セグメント別・分野別売上高

(百万円)

	平成29年度上期		平成30年度上期		増減	
	実績	構成比	実績	構成比	金額	前期比
建材	13,518	41.4%	12,831	42.0%	△ 687	△ 5.1%
内装システム	12,830	39.3%	11,688	38.3%	△ 1,142	△ 8.9%
住設	2,957	9.1%	2,708	8.9%	△ 248	△ 8.4%
(住宅資材事業 計)	29,306	89.9%	27,228	89.2%	△ 2,078	△ 7.1%
パーティクルボード	3,216	9.9%	3,229	10.6%	13	0.4%
(木質ボード事業 計)	3,216	9.9%	3,229	10.6%	13	0.4%
(その他事業)	91	0.3%	80	0.3%	△ 10	△ 11.7%
合計	32,614	100.0%	30,539	100.0%	△ 2,074	△ 6.4%

営業利益減少の要因分析(連結)



経営指標

	平成26年度 上期	平成27年度 上期	平成28年度 上期	平成29年度 上期	平成30年度 上期
発行済み株式総数(千株) (うち自己株(千株))	46,783 836	46,783 837	46,783 1,487	46,783 1,488	46,783 1,488
1株当たり純資産	955円55銭	998円45銭	1,022円16銭	1,078円62銭	1,067円13銭
1株当たり当期純利益	16円22銭	10円28銭	20円67銭	16円08銭	△ 15円81銭
9月末日株価	482円	411円	417円	540円	518円
PBR (東証1部平均)	0.50 1.1	0.41 1.1	0.41 1.0	0.50 1.3	0.49 1.4
売上高経常利益率	3.7	2.5	3.4	3.2	0.3

収益計画・資本政策の基本方針

(1) 資本政策の基本方針

- ・ 株主価値の持続的成長
- ・ 事業拡大に必要な株主資本の水準を保持
- ・ 連結配当性向30%以上
- ・ 必要に応じた自己株式の取得

(2) 配当政策

配当については資本政策の基本方針を踏まえ
財務状況及び連結業績を考慮して決定

- ・ 安定配当の維持継続
- ・ 利益還元の充実 ⇒ 連結配当性向30%以上

見通しに関する注意事項

本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

以上